

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	おおさかふりつせんぼくこうとうがっこう				②所在都道府県	大阪府
27～31	①学校名	大阪府立泉北高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	国際文化科 480 (160名/学年)	総合科学科 360 (120名/学年)
国際文化科	160	160	160		480	計 840名	
⑥研究開発構想名	共存共栄で持続可能なビジネスモデルを創造する次世代リーダーの育成						
⑦研究開発の概要	グローバル・リーダーたる資質を、「志（マインド）」と「実体験に基づく知識（ナレッジベース）」、「人とのつながりを作り活かす力（ヒューマンスキル）」ととらえ、それらを、国際学科であるがゆえに獲得できる道具としての複数言語運用能力のもとに高校卒業時に開花できるように、学年進行で課題研究とフィールドワーク、ASP ネットの活動等を有機的に組み合わせて、ビジョンを持つと同時に地に足のついた提案力・実行力の伴う人間の育成を行う。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標					
		<p>&lt;目的&gt; 社会の活動主体である企業（生産者）、消費者がなぜに社会の持続可能性を意識した活動をしなければならないかの問題意識を醸成することを通じ、共存共栄での持続可能なビジネスモデルを創造する次世代リーダーの育成を目的とする。</p> <p>限りある地球資源を人類共通の財産ととらえて、今後ボーダーレス化して行く世界で、産出国と加工・消費国という枠組みでなく、地球全体で共存共栄し、将来も持続可能な地球経済の仕組みを作り上げるようなビジネスモデルの創意・提案し、自ら先頭に立って構築できるようなグローバル・リーダーの資質を育成することを目的とする。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバルマインド育成 将来自分のキャリアとして世界に出ていこうとする志や、世界の中の日本経済の今後を考えて外国で高度な教育を受けようとする意志、また、学習や仕事の相手となる外国の立場やその文化、その国や地域の伝統や経済を大事にする配慮が出来る精神の育成。</li> <li>2. グローバルナレッジの獲得 持続可能なビジネス構築のための経済の基礎知識と社会の動きへの好奇心の維持を持ちつつ、歴史や文化に対する理解やフィールドワークや現実体験による知識の体得。</li> <li>3. グローバルヒューマンスキルの体得 外国の教育機関とのネットワークの構築や実際に学生たちが国際会議を開いている場での実習を通じてイニシアティブをとって問題解決を果たすための技能や方法を身につける。</li> </ol> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>国際文化科と総合科学科を併設する専門高校として、総合科学科は平成18年度より2度のSSHの研究指定を受け、課題研究のノウハウを積み重ねてきた。特に2期目は英語のできる国際的科学者の育成を目標に国際文化科での外国教育の経験を活かすような研究開発に取り組んでいるが、総合科学科での取り組みを国際文化科の教育に活かすことがなかった。</p> <p>また、身につけた言語能力を武器として、世界の問題を解決できるような人材育成を今後このSGHの取り組みで実践する。</p> <p>研究開発の中心は、企業との連携で現実の社会やビジネスの動きを学び、大学との連携によりその学術的背景を学ぶことを通じ、持続可能な社会づくりの問題意識を持った人材を育成する。さらに「国際会議開催体験」など自分たちの提案を実現するヒューマ</p>					

		<p>ンネットワークの構築力の醸成を図る。それらのスキルと体験をもとに、SGU への進学等につながることも期待でき、継続した学習マインドの土台を持った生徒を輩出する。</p> <p><b>(3) 成果の普及</b>          研究発表会の開催、レポートや論文集の発行。2年目以降に開催する国際理解フォーラムや3、5年目に本校主催での高校生による持続可能な発展のための提案をする国際会議の開催。</p>
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>		<p><b>(1) 課題研究内容</b>  <b>【グローバルマインド育成・グローバルナレッジの獲得のための主な活動】</b>          社会の活動主体である企業（生産者）、消費者がなぜに社会の持続可能性を意識した活動をしなければならないかの問題意識を醸成する。特に、「グローバル基礎」を通じ、グローバル事業を展開する企業の取り組み実態や学術的な補強授業を通じ、「持続可能な調達」「持続可能な開発のための教育」及び「多くの企業の生産財の調達地域の文化伝統を活かし、さらに経済の自立を促す方法論の構築」に関する課題研究を行う。  <b>【グローバルマインド育成・グローバルナレッジの獲得・グローバルヒューマンスキルの体得のための主な活動】</b>          課題研究で発見した問題の解決方法を実践できるよう、学校認定の課外活動（詳細は後述）を30時間行った場合、「グローバル活動Ⅰ」「グローバル活動Ⅱ」で各1単位を認定する。          課題研究をさらに発展させる取り組みとして、「グローバル課題研究Ⅰ」、「グローバル課題研究Ⅱ」を通じ、地域で開催する「国際理解フォーラム」、海外からの高校生を招待した「国際会議」を実施する。そして、リトアニア等の北欧諸国やボルネオでのフィールドワークなどを通じて課題研究を海外の視点から深める。</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b>          課題研究は2年次と3年次に「グローバル課題研究Ⅰ」「グローバル課題研究Ⅱ」において国際文化科全員が取り組む。また、国際文化科1年生の希望者対象に「グローバル基礎」を開講し、1年次から課題研究を始める。「国際理解フォーラム」は研究開発2年目と4年目、「国際会議」は3年目と5年目に国際文化科の1、2年生が運営の中心となって実施する。また、海外研修は希望者から選考して実施し、参加者それぞれが取り組んでいる課題研究のテーマを深める研修を行う。検証評価は、アンケートの実施やルーブリックに基づいたパフォーマンス評価を取り入れ、国内で開催される模擬国連大会への参加者数や成果をまとめた小論文及び課題研究中間発表会と課題研究発表会などでの発表成果によって行う。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b>          特になし          「総合的な学習の時間」を「グローバル課題研究」の名称で実施。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>		<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b>          TOEFL iBT 対策を中心とした学校設定科目「ACT」を開講して、グローバルリーダーに必要な英語力の育成をめざすとともに、SGH 事業で意識を高めた生徒が海外大学に進学あるいは留学する際のキャリア保障につなげる。</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b>          特になし</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</b>          特になし</p>
<p>⑨ そ 他 特 記 事 項</p>		<p>該当なし</p>

ふりがな	おおさかふりつせんぼくこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	大阪府立泉北高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	150人
	SGH対象生徒以外:	人	5人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方:SSH研究開発で実施した小学生対象の科学講座への参加や大阪国際マラソンの通訳ボランティアなどの実績があり、その活動の幅を広く増やし、主に「グローバル活動Ⅰ」「グローバル活動Ⅱ」でボランティア活動やユネスコスクール活動に参加する生徒数とする。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:	53人	57人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方:1年間等長期で生徒個人が行う留学と本校がこれまで実施してきたオーストラリア・カナダ・ハワイ大学語学研修、SSHオーストラリア・台湾海外研修、大阪府が主催しているグローバル塾への参加があった。これらにSGHリニア等の北欧・ボルネオ研修を加えて、単なる語学研修ではない海外研修を実施する。また、トビタテJAPAN留学プロジェクトやユネスコが主催する国際理解研修等への参加も奨励する。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	%	10%	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方:これまでこのようなアンケートを実施したことはないが、おそらく高い割合であると思われる。英語力と仕事を結びつけて考えられるように研究開発を実施していきたい。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	人	1人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方:今年度はSTEP英検の成績優秀者として1名表彰されることが決まっている。これまで学校としてあまり取り組んでこなかった結果であるが、今後はSGH課題研究と合わせて公益性の高い国内外への大会への参加をめざし、奨励していきたい。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	25%	25%	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方:平成25年度の実績はSTEP英検の2級合格者から算出した。今後はGTEC for Studentのスコアをもとに算出したい。									
TOEFL iBTの平均点									
f	SGH対象生徒:								50
	SGH対象生徒以外:		31						40
目標設定の考え方:「ACTⅢ」を受講した生徒が夏休みに受験するTOEFL iBT本試験の平均点を想定している。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	40%
	SGH対象生徒以外:	25%	25%	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: 外国語学部系だけではなく、外部試験の結果を用いたり、課題研究の成果を公益性の高い国内外の大会で発表した実績などを活用して国際化に重点を置く大学へ進学し、国際関係学や国際経済学、国際政治学などを専攻する生徒は増えると考えている									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:	0人	3人	人	人	人	人	人	3人
目標設定の考え方: 先進的な英語教育の取り組みもあり、海外の大学へ進学する生徒は少しは増えてきている。海外大学へ進学しても通用する英語力の育成や国際社会で活躍するグローバルリーダーのロールモデルを多く提示して、海外大学進学情報を教職員間で共有して奨励していきたい。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	20%
目標設定の考え方: 課題研究やその他の取り組みを通じて生徒の視野を広げると共に、将来の自分像を明確にし、専攻分野の選択に役立つようにしたい。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	120人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 国際文化科の卒業生の多くが大学在学中に期間にばらつきはあるが、海外留学に行っている。正確に調査を実施したことがないため、留学に関する追跡調査を行い、留学を奨励していきたい。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 国外の研修とは、リトアニア等の北欧諸国及びポルネオで実施するプロジェクト型海外研修のことをさす。新規事業となるので、これまでの実績はないと考える。ただし、SGHの支援を受けて参加者を選考するため、各方面10名の参加を見込んでいる。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	12人	10人	人	人	人	人	人	170人
目標設定の考え方: これまでの国内研修とは、全日本高校模擬国連を含めた東京研修とインターナショナルスクールとの交流を含めたイングリッシュキャンプである。これに加え、桃山学院大学で行われる単位認定を含めた講座への出席や週休日等に実施される集中講座も国内研修として考える。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	1校	校	校	校	校	校	40校
目標設定の考え方: SSH研究開発で台湾の国立彰化高級中学校と合同科学数学研究発表会を開催できた実績を生かし、同様にSkypeやテレビ会議システムを用いた海外の高校生とのディスカッションや合同研究を行い、多くの意見を取り入れた課題研究にしたい。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	40人	40人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: SSH研究開発では多くの大学教員や学生が課題研究に参画してきた。平成24年度及び平成25年度の数値はその実績である。SGHでもこの知見を生かして、多くの大学教員及び学生等の外部人材に課題研究に参画してもらうことで、学際的な側面も兼ね備えた課題研究を実施していきたい。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	10人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: すでに総合的な学習の時間で参画したポルネオの生物多様性に関する国際NGO専門家やカトマンズのJagritiアカデミーの学生との交流があった。今後はより多くの企業や外部人材に参加してもらえらる仕組みを作り、より新鮮な情報をもとに課題研究に取り組む。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	6人	4人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: これまで東京研修として実施してきた全日本高校模擬国連の見学実績があった。それに加えて、ユネスコスクールの全国大会、弁論大会、JICA国際協力小論文コンクールなどに選抜チームや優秀者が参加する。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	300人	350人	人	人	人	人	人	400人
目標設定の考え方: 長期(1年間)留学生、短期留学生(1月以上)、帰国生(2年以上海外生活体験を持つ生徒)、海外から訪れる中高生および視察団と定義し、平成24、25年度はおおよその人数とした。SGH指定後は、桃山学院大学の留学生を中心に海外からの国際会議の参加も見込まれるが、5年間を平均した値を目標設定値としている。								
先進校としての研究発表回数								
h	5回	4回	回	回	回	回	回	7回
目標設定の考え方: これまで実践してきたレシテーションコンテスト、スピーチコンテスト、SSH課題研究中間発表会及びSSH課題研究発表会に加え、「ACT」の授業公開やSGH課題研究中間発表会、SGH課題研究発表会を主に加える。開催を予定している国際理解フォーラムと国際会議はここに含まれていない。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	×						○
目標設定の考え方:								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	840	840					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							